

西日本の絶滅危惧タンポポの分布に関する研究

タンポポ調査・西日本実行委員会

小川 誠

大阪府

1. 研究の目的

福井県から佐賀県にかけての 19 府県西日本では、カンサイタンポポ、クシバタンポポ、キビシロタンポポ、ツクシタンポポ、ヤマザトタンポポが環境省や各府県で絶滅危惧種に指定されている（表）。その多くが稀少なために図鑑に掲載されておらず、他種と誤認されたり、詳細な調査が行われていないために分布や生態が明らかになっていなかったりと保護に必要な基礎的な情報が少ないものが多い。

我々タンポポ調査・西日本実行委員会は、2014 年から 2015 年にかけて、市民参加型調査でタンポポの分布を調べ、できるだけたくさんの人の協力の下に詳細なタンポポの分布を記録するタンポポ調査・西日本 2015 を実施した。そこで、①19 府県にわたる調査で、タンポポの分布を明らかにする、②その中の絶滅危惧タンポポについて生態や生育環境を明らかにして保護のための情報を蓄積することを目指す。

表 1. 西日本における絶滅危惧タンポポの指定状況

府県	カンサイタンポポ	キビシロタンポポ	クシバタンポポ	ツクシタンポポ	ヤマザトタンポポ
環境省				絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
福井県		絶滅危惧Ⅰ類			準絶滅危惧
三重県					
滋賀県					
京都府					
大阪府					
兵庫県		準絶滅危惧	情報不足		準絶滅危惧
奈良県					絶滅危惧Ⅰ類
和歌山県					
鳥取県	準絶滅危惧		準絶滅危惧		準絶滅危惧
島根県		絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類		絶滅危惧Ⅱ類
岡山県					
広島県					
山口県	絶滅危惧Ⅱ類				絶滅危惧Ⅱ類
徳島県			絶滅危惧Ⅰ類		
香川県					
愛媛県	絶滅危惧Ⅱ類			絶滅危惧Ⅱ類	情報不足
高知県	絶滅危惧Ⅰ類		絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類
福岡県				絶滅危惧Ⅰ類	
佐賀県	絶滅危惧Ⅱ類			絶滅	

2. 研究のこれまでの経過または準備状況

初めに、西日本 19 府県（福井、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀）で調査できる体制を整えた。そのため、各府県の実行委員会および事務局を決めた。各府県の代表が集まったスタ

ップ会議を開催し、調査方法を検討し、調査用紙案を作成した。3回の実行委員会を経て、細部を詰め、調査用紙や調査方法を決定した。2014年3月1日から5月31日まで現地調査を行った。調査用紙は参加者から順次各府県の事務局に送られ、場所や採集日などのデータを入力したり、タンポポの種類を同定したりして順次処理できる体制を整えた。

現在までの課程と今後のスケジュールは下記のとおりである

2013年	6月30日	第1回実行委員会
	8月31日	第1回調査マニュアル小委員会 *調査用紙・調査方法の検討
	10月19日	第2回調査マニュアル小委員会
	12月14日	第1回スタッフ会議 *調査用紙の確定→印刷・府県事務局の確定
2014年	1月～2月	市民への調査参加呼びかけ
	3月2日	第2回実行委員会（兼現地説明会・講習会）
	3月～4月	各府県・ブロックでの説明会・講習会の開催
	3月～5月	2014年現地調査の実施 （3月1日～2014年5月31日）
	6月10日まで	調査用紙回収
	6月14日	第2回スタッフ会議(+識別講習会)
	5月～9月	調査用紙・サンプルの処理・花粉観察・データ入力
	10月～12月	2014年度調査結果の解析
	11月8日	第3回スタッフ会議
	～12月まで	2015年度調査方法の確定と調査用紙の修正・印刷
2015年	1月10日	第4回スタッフ会議
	3月1日	第3回実行委員会（兼現地説明会・講習会）
	3月～5月	2015年現地調査の実施 （3月1日～2014年5月31日）
	6月10日まで	調査用紙回収
	6月20日	第5回スタッフ会議(+識別講習会)
	5月～9月	調査用紙・サンプルの処理・花粉観察・データ入力
	10～12月	2015年度結果の解析（西日本全体・各府県別）
2016年	3月まで	最終報告書の執筆、カラーチラシの作成と印刷
	3月	調査報告会と実行委員会の開催

3. 研究内容および方法

できるだけ細かい分布情報を集めるために、研究者だけでなく、一般の市民、地域の植物研究者など呼びかけて、福井、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀の19府県で調査を行った。

情報発信・交換と蓄積のために、ホームページ (<http://www.gonhana.sakura.ne.jp/tanpopo2015/>) を開設した。また、市民が誰でも参加できるメーリングリストを開設し、調査の内容やわかったことをニュースレターとして発行した。

現地調査は2014年3月から5月と2015年3月から5月の2期行った。調査用紙を配布し、調査した場所や環境、花の色や総苞の反り返り具合などのタンポポの特徴を記録し、花(あればタネも)と共に各府県の事務局に送る。事務局では花から花粉を取り出し、1000倍のデジタルマイクロ스코プを用いて、花粉が均一かバラバラかを判断し、種類を同定する。採集した地点や環境、タンポポの種類などのデータをファイルに入力する。

集まったデータを全体の実行委員会でまとめて分布図を作成する。また、得られた分布情報を元に、それぞれの種の生育環境を解析する。

各府県の同定の精度や情報交換のために2014年および2015年の6月にサンプル検討会を大阪市で行う。また、集まった情報を検討したり、調査方法の修正などを検討するためのスタッフ会議を数回行う。

2016年3月に西日本19府県でまとめた調査報告書を出版し、一般向けの成果の報告会を開催する。また、一部の府県では報告会を開催したり、調査報告書を出版したり、博物館などで展示を行う予定である。

なお、絶滅危惧種のタンポポについては、採集よりも環境の変遷による危険性が高いので、分布を秘匿するより、公開して積極的に保護する方が望ましいと思われるが、その点も十分に検討し、情報公開に際しては慎重に行う。

この調査では種別によらず採集した場合は、それぞれの種の詳細は記入してはなりません。

タンポポ調査-西日本2015 調査用紙 調査期間: 2015年3月-5月 調査地域: 西日本19府県

1 採集日時 2015年 月 日 No. _____

2 採集した場所 (できれば詳細まで) 住所: _____ 市町村: _____

3 もっと詳しい場所 A: 採集した場所の名称を記入して

① 総苞の反り返り具合	② 総苞の反り返り具合	③ 総苞の反り返り具合
_____	_____	_____

4 採集した場所の様子 もっとも近いものを1つ選んで○をつけて

A. 林や木のそば B. 道の上手 C. 田の畔や水田 D. 庭や公園 E. 畑や水田 F. 公園や緑地 G. 河川や川沿いの草むら H. 畑や田舎のまわり I. 牧場や畜舎のまわり

5 花(総苞)のひらき 開いた花の総苞の反り返り具合のどの部分か、はじめて○をつけて

反り返り具合	反り返り具合	反り返り具合	反り返り具合	反り返り具合
1. 反り返り具合	2. 反り返り具合	3. 反り返り具合	4. 反り返り具合	5. 反り返り具合
_____	_____	_____	_____	_____

6 タンポポの種類 調査が完了後に記入してください

1. 花の色、総苞の反り返り具合、花の反り返り具合を記入する。

2. 花の色、総苞の反り返り具合、花の反り返り具合を記入する。

3. 花の色、総苞の反り返り具合、花の反り返り具合を記入する。

4. わからない

7 調査して気づいた点や感想 連絡先を記入してください。この調査に関心をもちたい方は、必ずここに記入してください。

調査者の氏名 _____ 所属/学校 _____ 連絡先(〒) _____

調査した場所	調査日時	調査者の氏名	調査場所の種類	採集日時
_____	_____	_____	_____	_____

2015 年用調査用紙

4. 報告

(1) 会議の開催

2014年6月1日から2015年5月31日に下記の会議を開催した。

(A) 第2回スタッフ会議(+識別講習会)

- 【日 時】 2014年6月14日(土) 午後1時～午後4時15分
- 【場 所】 大阪市立自然史博物館 実習室
- 【出席者】 15名：香川(福井)、村田(滋賀・京都)、木村・宮田・横川・酒井・加藤(大阪)、鈴木(兵庫)、今西・河合(奈良)、地職(岡山)、井上(広島)、小川(徳島)、橋越(愛媛)、上赤(佐賀)
- 【内 容】 2014年調査状況ならびに調査で集まったタンポポの同定

(B) 第3回スタッフ会議

- 【日 時】 2014年11月8日(土) 午後1時～午後4時
- 【場 所】 大阪自然環境保全協会事務所
- 【出席者】 14名：芦谷(滋賀)、木村・高島・宮田・伊東・神田・廣寄・酒井・瀬崎(大阪)、鈴木(兵庫)、今西(奈良)、山本(広島)、小川(徳島)、松田(愛媛)
- 【内 容】 2014年調査結果の検討他

(C) 第4回スタッフ会議

- 【日 時】 2015年1月10日(土) 午後1時10分～午後3時40分
- 【場 所】 大阪自然環境保全協会事務所
- 【出席者】 10名：伊東・木村・宮田・神田・高島(大阪)、鈴木(兵庫)、小川(徳島)、井上(島根)、清末(鳥取)、末広(香川)
- 【内 容】 2014年調査結果カラーちらしの内容の検討他

(D) 第3回実行委員会

- 【日 時】 2015年3月1日(日) 午後1時～午後2時40分
- 【場 所】 大阪市立自然史博物館
- 【出席者】 44名：河端・香川(福井)、前田・谷口(滋賀)、野見山(京都)、木村・高島・宮田・伊東・横川・河合・神田・廣寄・加藤・湯浅・高橋義・高橋洋・富永・大井み・大井秀・酒井・斎藤・庫本・石田・今枝・瀬崎(大阪)、鈴木・武田・上田・松川(兵庫)、今西(奈良)、内藤(和歌山)、清末(鳥取)、井上(島根)、地職・上赤(岡山)、山本(広島)、小川(徳島)、末広・長尾(香川)、松井(愛媛)、坂本・田邊(高知)、上赤(佐賀)
- 【内 容】 午前中は一般向け調査説明会を開催
実行委員会では2014年調査の結果の概要と問題点を検討他

(2) 集まったサンプル数

2014年と2015年の現地調査では下記のサンプル（調査用紙）が集まった。なお、2015年のものは、まだ各府県実行委員会に調査用紙が届いているところもあり、今後増える予定である。現状では合計で65,000を越えるデータとなる。

表 2014年および2015年現地調査で集まったサンプル数

	2014年	2015年	小計
福井県	608	350	958
三重県	375	2100	2475
京都府	791	2130	2921
滋賀県	654	800	1454
大阪府	2621	4800	7421
兵庫県	763	2000	2763
奈良県	775	1200	1975
和歌山県	640	1600	2240
鳥取県	193	470	663
島根県	622	820	1442
岡山県	2929	3600	6529
広島県	1892	1299	3191
山口県	132	1000	1132
徳島県	2466	4600	7066
香川県	2551	3300	5851
愛媛県	2946	3700	6646
高知県	3477	4110	7587
福岡県	96	1102	1198
佐賀県	679	1500	2179
合計	25210	40481	65691

(3) 2014年調査結果報告のカラーチラシの印刷

2014年の調査結果について、下記のカラーチラシを作成し、各府県を通じて、参加者や学校、マスコミ関係などに配布した。大きさはA3の2つ折りで、印刷枚数は28,000枚である。

デザインは小川が担当し、調査結果だけではなく、調査を呼びかける内容を加えた。印刷には本補助金を使わせていただいたが、調査の内容をできるだけたくさんの方に知っていただき、2015年調査の協力を求めるのに大変有効であった。

■これがわかるとあなたもタンポポマスター？ タンポポを見分けるポイント

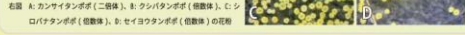
その1：冠筒の形に注目せよ



総苞外片の反り返りが強いと外来種（雑種を含む）の可能性が高くなります。しかし、最近では総苞外片が反り返らない外来種も増えてきました。

その2：花粉のばらつきには要注意！

タンポポは二倍体なら花粉は大きさがそろっていて、倍体なら花粉の大きさがバラバラになっています。それを利用して花粉を観察で見ると、二倍体なのかどうかがわかります。種類ごとに二倍体か四倍体かが決まっているので、花粉の大きさをばらつきは種類を見極める時の重要なポイントになります。最近では500倍以上に拡大できるデジタルマイクロスコープが安く買えますので、それを使って花粉を観察する手順を絞りこむことができます。



■タンポポ調査・西日本ではこんな団体が協力して調査しています。

タンポポ調査は、地域の自然や環境に関心のある人や団体が集まって、各府県ごとに実行委員会を結成し、調査を行っています。博物館や大学、地域の植物研究や環境保護団体、市民団体、教育関係団体など専門家や教育関係者、市民の方々などたくさんの方々の協力によって成り立っています。近年では環境省、環境省から委託する市町村が調査を行っています。

- 主催団体 「タンポポ調査・西日本実行委員会」
- 連絡先 (公社)大阪自然環境保全協会 〒590-0941 大阪府北区天神橋1-9-13 ハイム天神橋202号
- TEL:06-6242-8720 FAX:06-6881-8103 ホームページ: <http://gonhana.sakura.ne.jp/tanpopo2015/>
- 後援 環境省自然環境保全体験センター/日本環境教育学会/関西広域連合 西日本自然史博物館ネットワーク(公社)日本自然史博物館協会
- 協力 NIT(日本電信電話株式会社) 三宅電機株式会社 このウェブサイトはタカラホームズからの助成を受けて作成しました。

身のまわりの環境の健康診断をしてみませんか？

タンポポ調査・西日本2015へのご招待

タンポポ調査参加者募集中

調査期間 2015年3月1日～5月31日
参加資格 子どもから大人まで、どなたでも
※植物に詳しくなくてもだいじょうぶ
※学校やグループでまとまって参加も可
調査の難しさとても簡単

昨年3月1日～5月31日に行われた2014年の調査をあわせて2年間で結果をまとめます。昨年はおよそ25,000枚の調査用紙が集まりました。1km四方の範囲で集計して外来種・在来種の割合を調べますので、同じ地域でもたくさんタンポポが必要で、正確なデータを出すためには、まだまだ調査データが足りないために、タンポポを見つけたら送ってください。

調査の参加方法

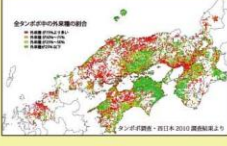
- ①花が咲いたタンポポを見つける。
 - ②調査用紙(下記のホームページからダウンロード)に必要事項を記入。
 - ③タンポポの花を採って、ティッシュで包む。
 - ④タネがあれば調査用紙にセロハンテープで貼り付ける。
 - ⑤調査用紙とタンポポの花を各府県の事務局(住所は調査用紙を参照)へ郵送か直接持参。
- ※iPhoneやiPadがあると、アプリを使って簡単に調査ができます。
※情報交換できるメーリングリストもありますので、詳しくはホームページをご覧ください。
<http://gonhana.sakura.ne.jp/tanpopo2015/>



タンポポは大きく分けて、外来種(外国からやってきた種類)と在来種(元々日本にあった種類)があります。それぞれの種類が好んで生える環境が違って、その割合が環境をはかるものさしになります。



タンポポ調査は、それを利用して身の周りの環境の健康診断をするものです。2010年の調査で蓄積から集めていただいた調査用紙を集計すると、西日本では次のような割合になりました。



さらに、西日本という限られた範囲でも地域ごとに生えているタンポポの種類が異なっていることもわかりました。健康診断は定期的に行って値の変化をみていくことが大切です。現在5年後にあたる調査を行っています。はたして今回はどのようなようになっているか、一緒に調べてみませんか？

タンポポ調査・西日本2015 2014年の調査結果より みんなで調べた・・・西日本のタンポポ

2014年に行われた調査で集まった25,000枚を超える調査用紙のうち、タンポポ以外のものやタンポポでも種類がわからないものなどの除いて24,600個の有効なデータとなりました。調査を通して、見えてきた西日本のタンポポの種類と分布状況を紹介します。

在来種(二倍体) 花は黄色で、花粉は均一、総苞外片は反り返らない

近畿地方や岡山県、四国東部に多いカンサイタンポポは西に向かうにつれて少なくなっています。2010年の調査でオオスタパンポポとしていたものは、その後の研究でトウカイタンポポだとわかりました。この調査ではトウカイタンポポとセイウタンポポを区別して調べていますが、中間型も多く、今後の課題となっています。



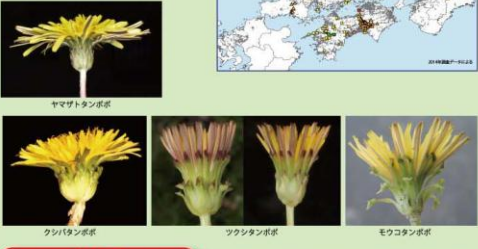
白花型在来種(倍体数) 花は白色かやや黄色みを帯び、花粉はバラバラ



タンポポというと普通は黄色い花を思い浮かべますが、西日本には白い花のタンポポが多く分布しています。特に四国では東部は黄色のタンポポが多く、西部は白いタンポポが多いと、地域によって咲いているタンポポの花の色が違ってきます。

黄花型在来種(倍体数) 花は黄色で、花粉はバラバラ

図鑑には載っていないので、見分けるのが難しい種類です。しかし、この調査を通じて、それぞれの種類の分布、特徴や生態が明らかになってきました。



外来種 花は黄色で、花粉はバラバラ、総苞外片は反り返る

セイウタンポポやアカミタンポポなどのヨーロッパ原産の種類が日本にやってきたものです。在来種との種類をつきつけていることがわかりましたが、外見では種類と区別することができないので、この調査では雑種を含んで外来種としてまとめて報告しています。

調査の一部については、タネのDNAを調べて、どのくらいの割合で雑種が含まれているか調査をしています。セイウタンポポとしたものの約60%が雑種で、アカミタンポポとしたものはごくわずかの雑種(約3%)が含まれていることがわかりました。この雑種の割合の違いがどのような原因によって起こっているのかは不明です。



2014年調査結果報告のカラーチャリ

(4) 同定方法の改良

タンポポは似たものも多く、同定が困難である。特に、従来は外来種と在来種の区別点と言われてきた外総苞片の反り返りが、在来種に似た総苞を持つ外来種が増えてきたために、頭花の形だけでは判別できなくなってきた。我々はそのために花粉を観察し、その大きさがバラバラであるか、均一であるかを調べることにより、倍数性を判別して外来種か在来種か判別する方法を採用している。しかし、そのためには生物顕微鏡が必要であり、それを覗きながらたくさんの花粉を観察するのは観察者の負担を強いることになる。



最近ではパソコンにつないで使える USB マイクロデジタルスコープが売られており、顕微鏡の代用として用いることができるようになった。数年前ではタンポポの花粉観察に必要な 500 倍以上の倍率を持つマイクロデジタルスコープは 4 万円近くで売られており、大変高価であった。しかし、今回 1000 倍のマイクロデジタルスコープが 1 万円以下で入手可能であることがわかり、試してみると十分タンポポの花粉観察で使えることがわかった。

そのうちのひとつ MI-SSTX1000 (USB 接続、WINDOWS ドライバ付属) を助成金で購入し、必要とする 10 府県に配布したところ、花粉観察の効率が上がり、観察者の負担も軽減できた。さらに、マイクロデジタルスコープは顕微鏡に比べ小さく場所をとらない、操作も簡単、安価であることから顕微鏡を簡単に利用できない中・高校生や一般などタンポポに興味を持った方にも、これを使ってタンポポの正確な同定ができることがわかった。

(5) 西日本タンポポ調査ニュースの発行

タンポポ調査の方法や結果などを公表するために不定期に西日本タンポポ調査ニュースというニュースレターを発行している。現在まで4号を発行し、うち3~4号が助成期間にあたる。

(A) 西日本タンポポ調査ニュース 3号 (A4、6ページ) 2014年6月14日発行



2014年のタンポポ調査終了

タンポポ調査へのご協力ありがとうございました。今年度の調査は3月18日〜5月31日で終了しました。おかげで11ヶ所調査箇所やサンプルは有意な結果を挙げ、今年度のタンポポ調査が、結果をまとめることができます。調査結果にも関心していただいているように、調査していた方の調査結果は、お礼状と共に報告書の中で紹介させていただきます。もちろん、調査結果を掲載し、半年分り最終的な報告書の中で、今年度の調査結果の紹介をさせていただきます。

クワアイ型のふきづめタンポポ

ふきづめの写真を拝見して、どこか見たことかと思われて驚かされたこと。クワアイ型タンポポのふきづめというように見えてきた。写真1、2。

ふきづめを出して見ている。状況は(左)のふきづめ。中央の葉は(右)のふきづめ。そのふきづめが(左)のふきづめに似ている。写真1、2。

クワアイ型のふきづめタンポポ

写真1. クワアイ型のふきづめタンポポ。 写真2. 雄花。 写真3. 小花。

高知・愛媛県境のツクシタンポポ

高知・愛媛県境のツクシタンポポ。高知・愛媛県境のツクシタンポポ。高知・愛媛県境のツクシタンポポ。

高知・愛媛県境のツクシタンポポ

高知・愛媛県境のツクシタンポポ。高知・愛媛県境のツクシタンポポ。高知・愛媛県境のツクシタンポポ。

高知・愛媛県境のツクシタンポポ

高知・愛媛県境のツクシタンポポ。高知・愛媛県境のツクシタンポポ。高知・愛媛県境のツクシタンポポ。

写真1. 高知・愛媛県境のツクシタンポポ。 写真2. 高知・愛媛県境のツクシタンポポ。 写真3. 高知・愛媛県境のツクシタンポポ。

クワアイタンポポの葉の変異

クワアイタンポポの葉の変異。クワアイタンポポの葉の変異。クワアイタンポポの葉の変異。

クワアイタンポポの葉の変異

クワアイタンポポの葉の変異。クワアイタンポポの葉の変異。クワアイタンポポの葉の変異。

クワアイタンポポの葉の変異

クワアイタンポポの葉の変異。クワアイタンポポの葉の変異。クワアイタンポポの葉の変異。

写真1. クワアイタンポポの葉の変異。 写真2. クワアイタンポポの葉の変異。 写真3. クワアイタンポポの葉の変異。

調査用紙のゆくてえ

調査用紙のゆくてえ。調査用紙のゆくてえ。調査用紙のゆくてえ。

調査用紙のゆくてえ

調査用紙のゆくてえ。調査用紙のゆくてえ。調査用紙のゆくてえ。

調査用紙のゆくてえ

調査用紙のゆくてえ。調査用紙のゆくてえ。調査用紙のゆくてえ。

写真1. 調査用紙のゆくてえ。 写真2. 調査用紙のゆくてえ。 写真3. 調査用紙のゆくてえ。

2014年タンポポ調査サンプル数

2014年タンポポ調査サンプル数。2014年タンポポ調査サンプル数。2014年タンポポ調査サンプル数。

調査箇所	調査箇所	調査箇所	調査箇所
1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16
17	18	19	20

2014年タンポポ調査サンプル数

2014年タンポポ調査サンプル数。2014年タンポポ調査サンプル数。2014年タンポポ調査サンプル数。

ニュースレターの掲載を募集

ニュースレターの掲載を募集。ニュースレターの掲載を募集。ニュースレターの掲載を募集。

ニュースレターの掲載を募集

ニュースレターの掲載を募集。ニュースレターの掲載を募集。ニュースレターの掲載を募集。

ニュースレターの掲載を募集

ニュースレターの掲載を募集。ニュースレターの掲載を募集。ニュースレターの掲載を募集。

- ・2014年のタンポポ調査終了
- ・クワアイ型のふきづめタンポポ
- ・高知・愛媛県境のツクシタンポポ
- ・クシバタンポポの葉の変異
- ・ウォッチーズが使えなくなります
- ・地理院地図による緯度・経度の検索
- ・調査用紙のゆくてえ
- ・2014年タンポポ調査サンプル数
- ・タンポポ調査のスケジュール など

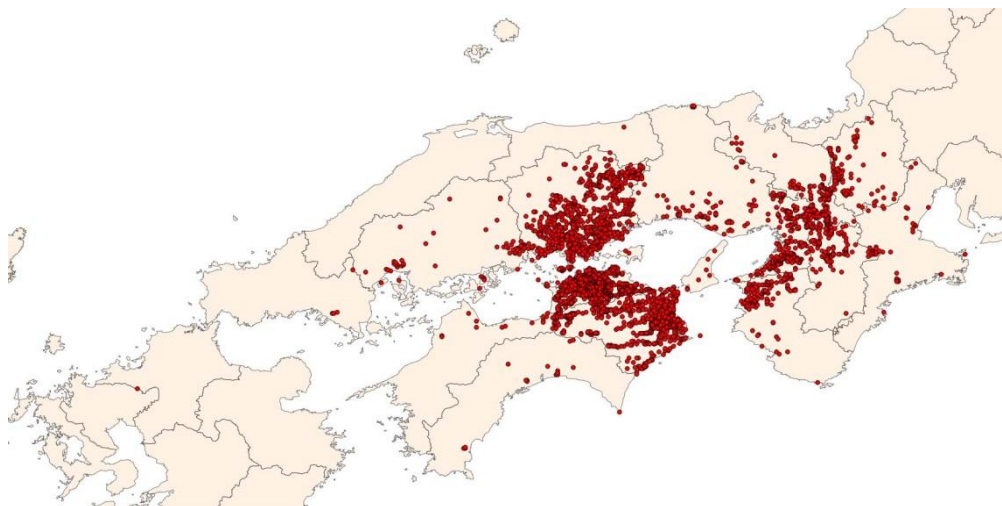
(A) カンサイタンポポ



指定状況

鳥取県	： 準絶滅危惧
山口県	： 絶滅危惧Ⅱ類
愛媛県	： 絶滅危惧Ⅱ類
高知県	： 絶滅危惧Ⅰ類
佐賀県	： 絶滅危惧Ⅱ類

西日本では普通のタンポポと思われていたが、2010 の調査で分布に偏りがあることが明らかになった。2014 年の調査では 3014 メッシュで記録され、2010 の調査同様、東瀬戸内海周辺に分布が集中し、西部や日本海側にいくと分布が極端に減ってくる。そうした分布が少なくなった愛媛や高知県等で絶滅危惧種に指定されている。

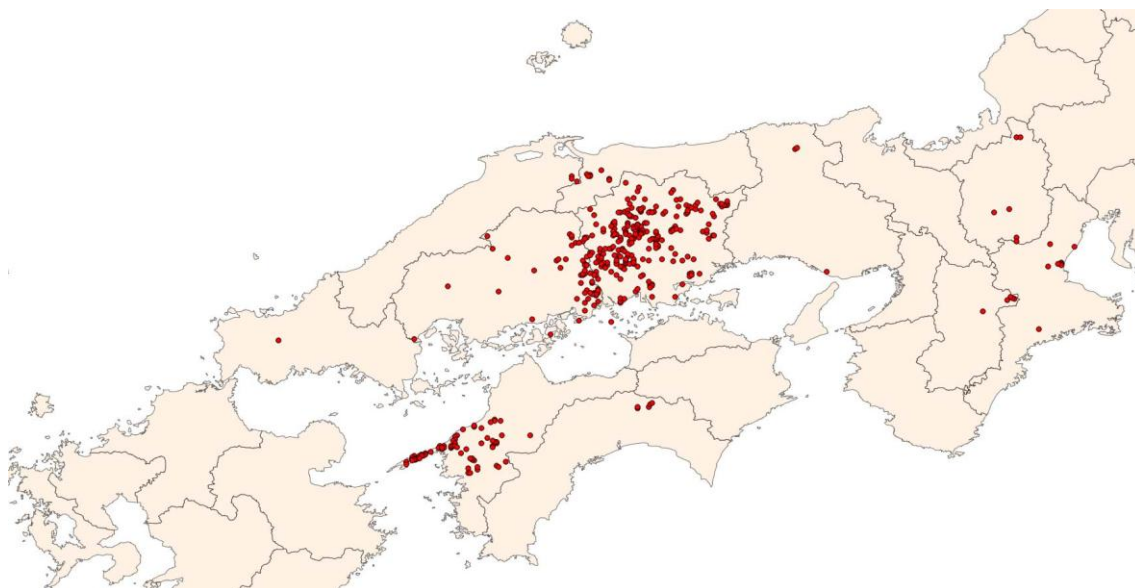


(B) キビシロタンポポ



指定状況 福井県：絶滅危惧Ⅰ類
兵庫県：準絶滅危惧
鳥取県：準絶滅危惧
島根県：絶滅危惧Ⅰ類

最初に岡山県で発見されたためにキビシロ（吉備白）タンポポと名付けられた。その名のとおり岡山県に多いが、近畿地方東部や四国西部にもみられる。2014年の調査では394メッシュで記録されたが、2015年の調査では新たに香川県の島嶼部でも見つかっている。岡山県以外では分布量が少ないので、指定されていない地域では新たに絶滅危惧種として指定する必要があるので、その基礎となる資料が集まった。



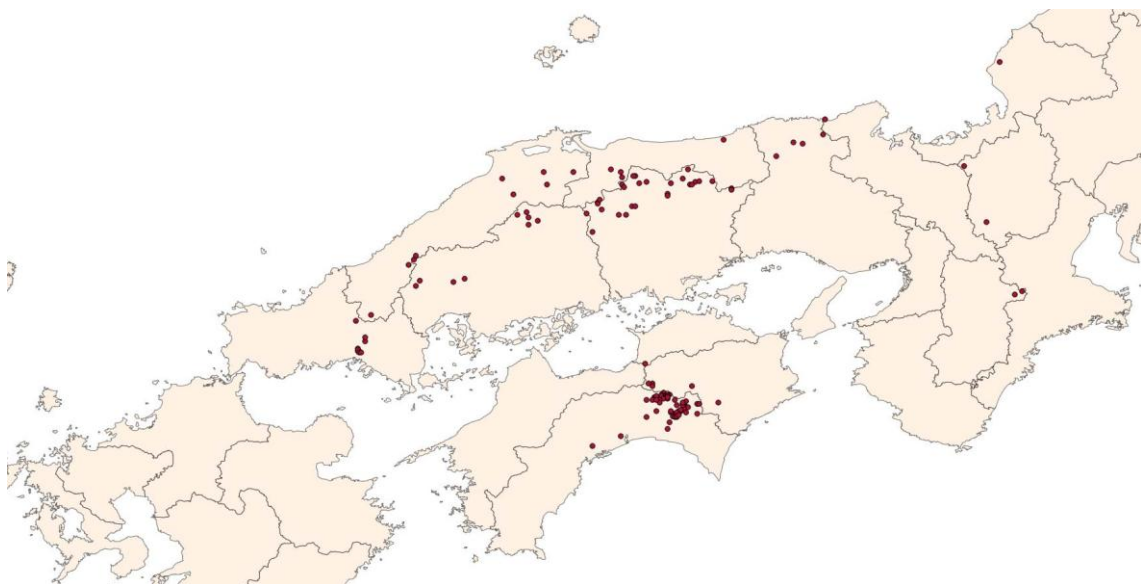
(C) クシバタンポポ



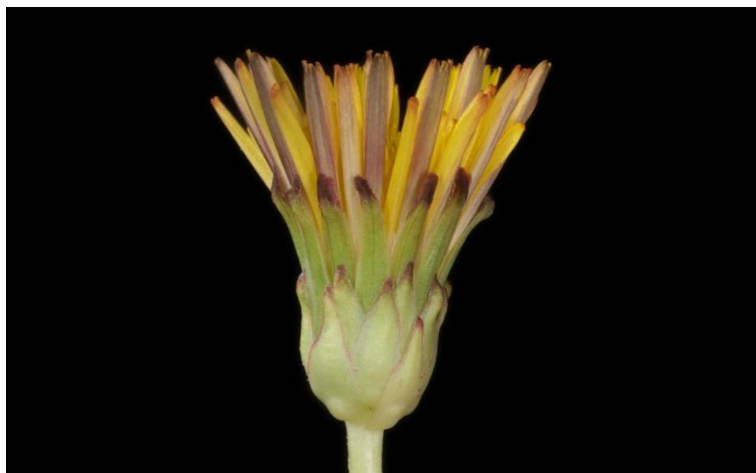
指定状況

兵庫県:	情報不足
鳥取県:	準絶滅危惧
島根県:	絶滅危惧Ⅱ類
徳島県:	絶滅危惧Ⅰ類
高知県:	絶滅危惧Ⅰ類

分布量が少なく各地で絶滅危惧種に指定されているが、分布がはっきりしなかったため指定から漏れている府県もある。香川県や奈良県で新たに分布が見つかったため、それらの地域では新たに絶滅危惧種として指定される可能性がある。



(D) ツクシタンポポ



指定状況 環境省：絶滅危惧Ⅱ類
 愛媛県：絶滅危惧Ⅱ類
 高知県：絶滅危惧Ⅰ類
 福岡県：絶滅危惧Ⅰ類
 佐賀県：絶滅

福岡県で見つかったのでツクシタンポポの名がついた。環境省のレッドデータブックでも指定されているが、図鑑に写真等の情報が無く、実態がわからないままであった。そのため愛媛県では長らく、トウカイタンポポが本種として誤認されていた。

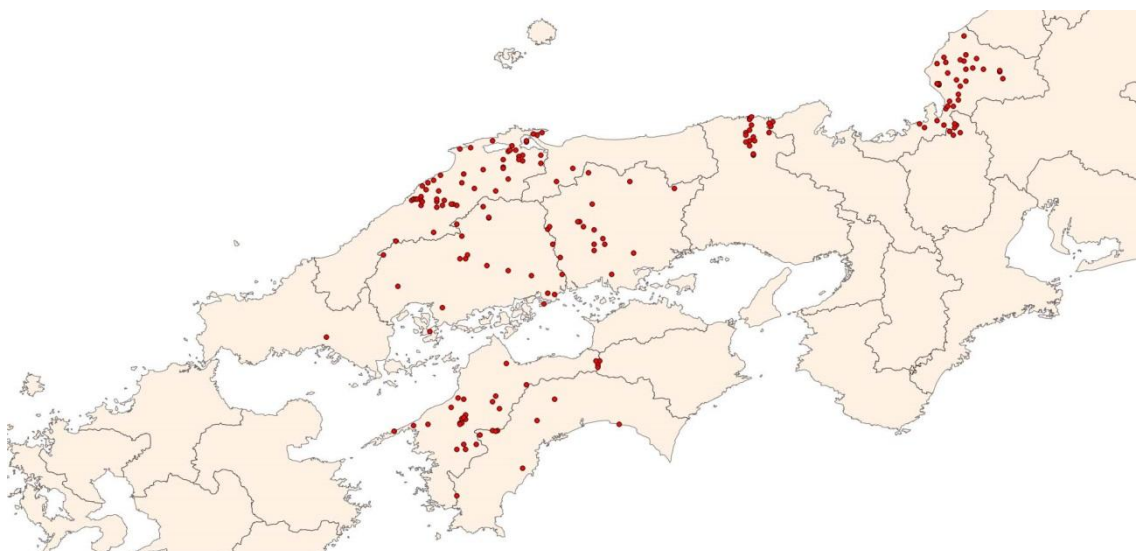
2014年の調査では2メッシュで確認された。2015年は高知県と愛媛県が合同でツクシタンポポの分布や生態の精力的な調査が行った。その結果、他のタンポポとは違った開花時間や生育環境を持っているのがわかってきた。こうした府県を越えた協力体制を築くきっかけとなった。



(E) ヤマザトタンポポ



指定状況	環境省：準絶滅危惧
	福井県：準絶滅危惧
	兵庫県：準絶滅危惧
	奈良県：絶滅危惧Ⅰ類
	鳥取県：準絶滅危惧
	島根県：絶滅危惧Ⅱ類
	山口県：絶滅危惧Ⅱ類
	愛媛県：情報不足
	高知県：絶滅危惧Ⅰ類



西日本に比較的広く分布している種であるが、図鑑に載っていないので情報が少ない。2014年の調査では182メッシュで記録された。

5. 終わりに

従来タンポポ調査は、都市化と外来種に注目した調査であった。しかし、生物多様性などの新しい概念が導入されたことにより、今までとは異なった視点でタンポポ調査が見直されてきた。

専門家の調査だけでは見落としてしまうような希少なタンポポも、市民参加によりたくさん産地を記録することができた。そうした中で各府県で初記録のものも少なからず見つかってきた。また、その地域だけではわからなかったタンポポの種類が、広域の地域で情報を共有することにより、今までに見つからない地域に絶滅危惧タンポポを発見することができた。このような、専門家と市民がタッグを組んで調査することや、広域で調査することの意義をタンポポ調査は示している。

今後は 2015 年の調査結果を踏まえて、一般の図鑑などには掲載されていない希少種のタンポポについて詳しい情報を蓄積し、その形態や生態を報告書やホームページ等で公開することで、さらなる発見や情報収集の機会が増えるよう努力したい。そして、詳細な分布を記録することにより、絶滅危惧のランクを見直したりするための資料を蓄積していくつもりである。

特に、詳細な生育状況や分布は地域のレッドデータブックを作成するのに必要な基礎データとなる。そうした絶滅危惧タンポポの存在を地域に還元することにより、保護活動の機運を高めるきっかけともなる。